

カルメル 霊性センターニュース



宇治カルメル修道院

2019年1月

349号



主のご降誕の喜びの内に 新年のご挨拶を申し上げます

日頃より、『霊性センターニュース』をご愛読いただき、まことに有難うございます。読者の皆様の御協力に心から御礼を申し上げます。

ところで、今年は「平成」の時代が終わり、新しい時代へと入ります。一体、どのような一年となるのでしょうか。

世界を見渡せば、富める国と貧しい国の格差は広がったままです。日本国内でも貧富の格差が以前に比べ、広がってきていると言われています。一握りの大富豪や先進国の人々の豊かな生活が多く、貧しい国々の貧しい人々の犠牲の上に成り立っているという事実を、否定することはできないでしょう。

2019年が、まことの愛である神の愛の内に、世界に広がるあらゆる格差が是正され、社会正義が実現されて行く一歩となっていきますように。それによってすべての人が、まことの平和であるキリストの平和にあずかり、私たちと共に、父と子と聖霊の愛の交わりである神に感謝と賛美をささげて行くことができますように。

カルメルのこの小冊子が、皆様の内的生活に少しでもお役に立てれば幸いです。今年も種々の記事と、黙想会や祈りの集い等の企画案内を、みなさまへお届けいたします。

本年が、神のいつくしみに満たされた恵みの一年となりますように。

編集長

パウロ 九里 彰神父



目次

2019年度の年頭の御挨拶	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	25
東京	26
名古屋	29
京都	30
北陸	33
通信深読お申込みのご案内	34
諸所の企画案内	35
郵送お申込みのご案内	46
編集後記	47

心の泉



宇治カルメル修道院



第三卷

第十六章 まことの慰めは神にのみ求められる

2 空しい幸せ

この世のすべてを持っていても、おまえは完全な幸せにはなれない。なぜなら、すべてを創造した神においてのみ、おまえの完全な幸せがあるからである。その幸せは、この世の執着するおろかな者たちが望んでいる幸せではなく、キリストのしもべが期待するもの、「天にその心を置く」(フィリピ3・20)霊的な清い心の人々が、この世においてあらかじめ味わうその幸せである。人間から来る慰めは、いずれもはかなく空しいものである。しかし、真理の神が心に与えてくださるのは、まことの慰めであり、幸福の泉である。敬虔な者は慰め主であるイエスに、どこにでも従い、「主イエスよ、いつも、どこでも、私を守ってください」と言うであろう。人間から来る慰めを、何一つもたないことを望む。このことだけが、私の唯一の慰めでありたい。もし慰めが奪われても、み旨とあなたによって送られる試練とを、私の最高の慰めとしたい。あなたはしもべに、「永久に怒り続けることもなければ、永久に脅かし続けることもないお方」(詩篇103・9)なのである。》

第十七章 すべての心配を神にゆだねる

1 主

《子よ、私の望むままに、あなたを扱わせなさい。あなたにとって何が役に立つかを、私は知っている。あなたはほとんどのことについて人間として考え、人間的な感情に任せがちである。》

2 子

《主よ、あなたの言われることは真実です。私に対するあなたのご配慮は、私が自分のためにしているすべての配慮にまさるものです。自分の心配を、あなたにゆだねない者は、大きな危険に取り囲まれています。主よ、私の意志がつねに正しく強くあなたと一致しているかぎり、私のことをみ旨のままにはからってください。あなたが私にしてくださることはすべて、ただ私のより大きな善のためからです。私が闇に取り残されることをお望みだとしても、あなたは祝されますように。また私を光で照らしてくださるとしても、あなたは祝されますように。私を慰めてくださるなら、あなたは祝されますように。わたしを患難にあわせるおつもりだとしても、いつまでも同様に、あなたは祝されますように！》

主が み顔を向けて あなたを照らし
あなたを守られるように
あなたに 恵みを与えられるように
主が み顔をあなたに向けて
あなたに 平安を賜るように。



民教記6・24



「わたしは、神の民の忍耐の中に聖性を見るのが好きです」
教皇フランシスコは使徒的勧告『現代世界における聖性』
で具体的な例をあげて、あふれるほどの愛を注いで子育て
にあたる親、家族の生活の糧のために働く人、さまざまな
状況の中でも笑顔を絶やさない人、病との戦いに耐えている
病人、奉献生活を歩み続ける高齢の修道者の「根気の道」
に、戦う教会の聖性を見ていると言われます。

神の母の祝日ではじまる新しい年にあたり、このような
"身近かな" 聖性を生きる日々でありますよう

お祈り申し上げます。

伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィイ）



創造主への賛美（16）

くのり 彰

自己意識の発生は、人類誕生の瞬間であるとも言える。他者（人間だけでなく、自分の外の森羅万象）を客体的に見ることによって、主体としての「わたし」が意識され、自他がはっきりと区別されることになる。他者を自分と違う存在として意識することから、自分の存在が意識されてくるとも言える。「わたしはわたしである」、「あなたはあなたである」という認識である。

ここからあらゆる事物や現象を、対象的に、自己中心的に眺める傾向が生じてくると言ってもいいかもしれない。それまでは、他の人間や動物や植物や無機物との関係は、大きくゆるい絆・連帯の中にあり、他者の存在と自分の存在の境界は明確に意識されていなかったと思われるが、今や自分に直接には関係のない自分の外のことになってくるのである。

しかし、この意識によって、自由な創造的な思考が可能になったとも言える。すべてのものを絶えず観察することによって、さまざまな特徴や性質、際立った事実に気づくことになる。それらの観察の積み重ねから、だれもが納得する普遍的理解が形成されてゆく。その思考過程の中で、やがて新たな創造的なアイデアが生まれてくるのである。その最初の創造は、原罪の物語では、アダムとエバがイチジクの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとしたということであろう。

それまでもイチジクの葉はイチジクの葉として存在していたに違いない。他の木の葉と同様、毎年、枝に生え、成長し、枯れ、落葉していたのである。それらの葉をつづり合わせて、腰を覆うものとしたのは、アダムとエバ、すなわち人間がこの葉は腰を覆うのに適していると判断したからであろう。この判断、アイデア（考え）からそれまでこの世界には存在しなかった新たなものが創り出されたのである。もちろん、つづり合わせるには技術がいる。最初はうまく行かなかったかもしれない。試行錯誤を繰り返した末に、「イチジクの葉腰巻」第一号が完成することになる。

ところで、周知のように、科学・学問という英語” science” は、ラテン語の “scientia”（知ること、知識）、” scire”（知る）から来ている。その意味では、自己意識の発生とともに、森羅万象に関するさまざまな知識が生じ、それに結びつく形で技術（technology）も発生したとは言えないであろうか。素朴な知識とそれに基づく技術の発展は何万年にもわたり、その累積が数千年前にはギリシャの学問（自然哲学）となり、さらに数百年前から西欧の自然科学技術が飛躍的・加速度的に進歩してきたと思われる。

（続く）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (131)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「十字架の聖ヨハネの本質的で深遠な解説」(8)

もし自然がキリストの復活 (CB5,4) によって照らされ高められ、さらにはパウロの力強い直観 (ロマ 8・20-22) にあるように、自然はキリストの内にキリストによって救い出され復活させられたのだという考えを推し進めるならば、十字架のヨハネが、恋い慕う霊魂にとっては愛するお方である神のことを、CB (『霊の賛歌』B版) の第 14 と第 15 の二つの歌に閉じ込めることができたということには驚かないでしょう。そこでは、ヴィジョン (幻視) のイメージに満ちた二つの歌が取り扱われています。その美の探求は、詩人で評論家のカルロス・ブソニョをして、十字架のヨハネを現代の詩人、20 世紀の詩人、すなわち永遠の詩人とみなすこととなりました。けれども、文芸評論的評価が非常に高いとしても、もっと興味深いことは、この場合に用いられている言葉の諸要素や素材は高められているのですが、どのように、またどれほど、その言葉遣いが彼によって高められているかを見ることでしょう。

エコロジカルな要素が、これら二つの歌において用いられています。その中で、著者と恋い慕う霊魂は、「愛する方のもろもろの偉大さを語り、歌うことしかしない」(CB14-15,2) のです。

二つの歌の言葉は、次のとおりです。

私の愛する方は 山々
木々の生い茂る、人気のない谷
ふしぎな島々
ひびき高く流れる川
愛のそよ風のささやき。
夜明けが始まるころの
静かな夜
沈黙の音楽
ひびきわたる孤独
くつろがせ 愛に酔わす 夕げ。

(続く)

エディット・シュタインにおける女性の霊性 (5)

ハビエル・サンチョ神父 (OCD)

3. 女性の霊性のための基礎

女性の存在を構成するさまざまな側面、すなわち伴侶、妻、悪に反対する闘士、奉獻された処女性などは、女性におけるキリスト教的な真の生活を特徴づけ、それを発展させる堅い土台を与えてくれるものです。そして、これらの諸要素に基づいて、女性の固有の霊性を熟考し、生きることができるでしょう。

これらのすべての側面は、互いに結ばれており、自然的かつ超自然的召命によってすべての女性に共通です。「実現」の仕方は、個人的な召命の身分によってさまざまですが、その内容は、「奉獻」の存在も含め、彼女が婚姻の身分を生きる時ですら、女性の存在に影響を及ぼしています。したがって、エディット・シュタインの足跡を絶えず追っていくことによって、「贖いの計画における協働者」としての、また「キリストの弟子」としての女性を形づくっている根本的な諸価値を指摘する図を描くことについて論じて行きましょう。

まず第一に、女性が呼ばれている究極の目的とは何なのかを問わなければならないでしょう。この目的を考慮に入れる時にのみ、私たちは道を描くことができます。実に全人類も女性も、神の像となるように呼ばれているのです。すなわち、すでに注釈したように、その存在に刻印されている、神から受け取った使命を人生の中で実現しなければならないのです。したがって、女性の完徳は、人間性や女性性や個人性の諸価値の発展という女性を定義するその存在そのものを現実のものとしていく度合いの内に与えられてくるでしょう。

「母親」として、女性は「家庭の心、家の魂」(ESW V,68)であることによって、その召命を発展させるのです。この心であるということは、家族の狭い範囲にのみ限定されず、家庭の限界をはるかに越えていきます。これに並行して、女性のこの特徴は、あらゆる人間的なものの領域にまで及びます。また女性は子供たちの教育者でもあり、あるべき者へとなるよう男性を助ける教育者でもあるので、人類におけるその役割は、自分自身の内に、また他の人々の内に体現しなければならない人間的な真の諸価値の教育者であることにあります。この使命は、ある意味では、女性が、道徳的善のための特有な感性という女性に特徴的である賜物を自分の中で発展させるように義務づけます。同様に、女性は自分が教えることに対し

確固不動としていなければならず、「靈魂の中で神の働きを受け取り」(同 214)、広く開かれ、平和に満たされ、心の温かく、周りを明るくする、慎重で、無私の、自己抑制できる人でなければなりません。エディット・シュタインは、女性のキリスト教的生活を特徴づける一般的な輪郭を、次のテキストの内に提示しています。

「存在(神)に自分を与えること、自分を超越して自分の人格を高めること、(人間を超える真の)

存在の無限性の中で自己の人格の限界を超越すること、目標(職業)に向けて、人(指導)に向けて、靈魂(使徒職)に向けて自分の仕事を導くこと」(同 220-221)。

ここに決定的に表現されていることは、女性の母性の普遍的性格です。と同時に、エディット・シュタインは、奉獻された処女性の真の意味をもって、女性は、女性の親密な(親切的な)存在を放棄するのではなく、身体的・物質的次元を超え、靈的・超自然的母性となることとして特徴づけています。すなわち、その母性は、人々を「神の養子へと導く」(ESW V,193)こと、キリストを愛することへと導くこと、「永遠の命に参与するのを助けること」(ESW XII,121)内に実現されているのです。

女性を特徴づける他の側面は、男性の「伴侶」、協働者です。それは、女性の存在が、男性に必要であるばかりでなく、さらにその存在と働きによって、人間の活動のさまざまな分野が、職業であれ、社会であれ、政治であれ、経済であれ、そして言うまでもなく、教会内で、豊かにされるということを意味しています。女性の靈的態度は、この角度から考察されています。それは、諸価値を獲得し、被造物を支配する際に、男性が必要としている欠くことのできない助けです。すなわち、「創造の物語は、一つの存在として一緒に働くために、ふさわしい助け手として女性を男性の隣に置くのです」(作品 158)。

その召命を首尾一貫して生きようとするキリスト教徒の女性は、女性の真の状態を受け入れ、成熟させねばなりません。キリスト教的行動や生き方の模範として、エディット・シュタインは、女性の存在を要約するいくつかのイメージを提供しています。彼女自身の言葉で、それらの一つひとつが提供している内容を明らかにしてゆきましょう。

(続く)

主の洗礼の祝日

(ルカ 3 : 15 - 16、21 - 22)

イエスが洗礼を受けた。これにはどういう意味があるのでしょうか。ヨハネによる洗礼は「悔い改めの洗礼」ですが、イエスに悔い改める必要などあったのでしょうか。ましてや、私たちが受けた「罪の赦しをもたらす唯一の洗礼」など、罪のないお方には不要であるに違いありません。

にもかかわらずイエスが洗礼を受けたのは、私たちに対する大きないつくしみだと思えます。「民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗礼を受けて祈っておられると」と書いてあります。イエスは民衆と一緒に洗礼を受け、祈られたのです。クリスマスに私たちと同じ人間となり、貧しさを受け取られたイエスは、また、民衆と連帯して罪の重荷を担い、洗礼まで受け、祈られたのです。イエス個人としては聖なる方ですが、民衆と一つになられたイエスは、民衆を代表して悔い改めの業を行われたのだと思えます。イエスはもはや個人ではなく、私たちと一体なのです。

イエスが洗礼を受け祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のようにイエスの上に降ってきました。民衆と一体となられたイエスの上に天が開き、聖霊が降って来たのです。そして、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が天から響きました。父はイエスに向かって言ったのですが、間違いなく民衆と一体となられたイエスに向かって言ったはずです。それが父の心に適うことだからです。

アダムの子孫である私たちは、罪を受け継ぎ、神様との親しさを失っていました。神様との交わりである楽園の生活から出て、さすらいの身になっていたのです。そんな私たちを羊飼いのように探しに来てくれたイエスは、一緒になって洗礼を受け一つまり死んでくださり、神の国への入り口を私たちの上に開いてくださったのです。イエスに結ばれる私たちの上に天は再び開かれ、聖霊が注がれ、私たちは父なる神の子供となります。神はそのひとり子を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えられます (ヨハネ 1・12)。こうして、私たちはイエスと一緒に楽園に向かって歩むのです。

このようにして、父と子と聖霊が啓示されました。このいつくしみ深い神が開いてくださった光の中を、すなわち洗礼の恵みの中を、感謝のうちに歩いていきましょう。

(今泉健神父)

年間第3主日

(ルカ1：1-4、4：14-21)

今日は年間第3主日、C年ですので、ルカ福音書が順に読まれてゆくこととなります。イエスはどのようなお方でいらっしゃるか、そのことが語られてゆくこととなりますが、ルカ福音書の冒頭では、福音記者がこの書を誰に向けて書いたのかが語られています。ここで出て来る「テオフィロさま」という呼びかけ、書き出しは使徒言行録の冒頭でも出て参りますので、ルカ福音書の続きが使徒言行録ということが言われています。

話が横道にそれてしまいましたが、今日のみことばは、イエスが洗礼を受けられた後、荒野で40日間、悪魔から誘惑を受けられた後、公生活での最初の出来事となります。

イエスは霊に満たされておられます。神の霊、愛の霊、神の力に満ちてガリラヤへと戻られました。イエスの言葉、行いが力に満ちた、愛に満ちたものであったのでしょうか。評判が周りの地方一体に広まったと書かれています。諸会堂で教え、尊敬を受けられた、その光景を思い巡らしながら、イエスの姿を眺めましょう。

イエスはお育ちになったナザレに来られ、安息日に会堂に入り、聖書朗読されようとされます。係から渡されたイザヤの預言の巻物をお開きになりますが、ちょうどその時、目に留まった巻物の箇所をお読みになられました。主の霊がわたしの上におられる…、主がわたしを遣わされたのは、…主の恵みの年を告げるためである。

そしてこの聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現したと言われます。評判が広まり尊敬を受けられていたイエス。その語る言葉はどのような言葉であるのか、耳を傾けようとしている人々の姿がそこにあります。期待のうちに、喜びのうちに…。

私たちが心の内にイエスをお迎えし、この言葉に耳を傾けるなら、私たちのうちにも今日、実現したとイエスが語りかけて下さるのではないのでしょうか。イエスが私たちのところに来られ、語りかけて下さる喜びを胸にしなながら、イエスとともに生きる喜びに思いを馳せながら、イエスとともに歩んでゆくことにいたしましょう。

(Fr. 古川利雅)

(お詫び) 今回「みことばのひびき 主の公現・年間第2主日」分が担当者の都合により掲載できませんでしたことをお詫び申し上げます。

いのちの言葉 1月

ただ正しいことのみ追求しなさい。

(申命記 16. 20)

申命記には、預言者モーゼがその生涯を閉じる前に語った言葉が収められています。

モーゼはイスラエルの民に「神の律法」について語ります。愛する我が子を慈しむ父親の「言葉」として、それを民に説いています。神は、「律法」を通して、神との契約が実現されることを民にお示しになりました。

「神の律法」を忠実に生きるとき、民は、助けの手を差し伸べてくださる神の存在を常に身近に感じ、それを味わいながら、感謝のうちに前進していかれるのです。

「神の律法」を具体的にいきる方法の一つに、「決心して正しい道を歩む」ことが挙げられます。

キリスト者は、神の民として自分を選んで下さった神への感謝とともに、神以外には何も崇めることなく、貧しい人の必要に心を開きながらこの道を歩んでいくことができるのです。

ただ正しいことのみ追求しなさい。

私たちも、理不尽なことや不正を体験したことがあるでしょう。時には、最も弱い立場に置かれている人、あるいは、社会の周縁で困難な境遇にある人を犠牲にする深刻な不正が行われることもよくあります。

当然、正義を実践していくためには、心の中にある不正への傾きをはじめ、私たちの生活環境から不正を排除していかなければならないでしょう。

しかしながら、神は、悪人を滅ぼして正義を行われるような方ではありません。むしろ、その人が再び正しい道に戻れるように計られる方です。¹

旧約聖書の「カインとアベルの物語」を思い出して下さい。実に、神の正義は「人に新たないのちを与えること」にあるからです。

イエスは、「神の正義」とは何かを私たちに見せて下さいました。それは、すべての人に対する限りない愛に他なりません。

イエスによって私たちにも正義を実践する道が開かれ、こうして、「慈しみと赦し」が広まりました。「慈しみと赦し」こそ社会正義の基盤となるものです。

ただ正しいことのみ追求しなさい。

今月のみ言葉は、1月18日から25日まで行われる「キリスト教一致祈祷週間」を念頭に選ばれ、何よりもキリスト者の間で和解するように招いています。

和解によって諸教会のキリスト者が協力しすべての人への奉仕に向かうなら、不正によって受けた傷を一層効果的に癒せることでしょう。

パレルモ（イタリア）在住のサルバトーレの体験はそのお手本とも言えます。福音派教会に属する彼の体験です。「身寄りもなく誰も助ける人もいない服役中の人を訪問するようになりました。少しでも彼らの精神的物質的な支えになればと始めたことですが、毎回、神様にすべてを委ねながら刑務所を訪ねました。私の所属する教会の人や、他の教会の人にも声をかけるうちに、聖公会やカトリックの人も参加する一つの組織に成長しました。助けを必要とする兄弟を支える喜びと共に、多くの人にイエスを告げる機会も与えられ、さらに、お互いの間にとっても深い関係が生まれました」と。

この体験を聴いて、1998年ドイツで開かれたエキュメニカルな集いでのキアラ・ルービックの次の言葉を思い出しました。「教会の歴史を振り返るとき、私たちは深い悲しみを覚えずにはいられません。キリスト者同士が長い間、絶えぬいがみ合い、争い、戦ってきた歴史があるからです。もちろん、歴史的、文化的、政治的、地理的、ひいては社会的背景など様々な原因がそこにあったことは確かです。しかし、キリスト者同士をひとつにする大切な要素である「愛」が欠けていたことも否認しません。

エキュメニズムに携わる方が、十字架に付けられ、見捨てられながらもなお、御父に全てを委ねるイエスの姿をそこにみて彼を愛するなら、必ず実りがもたらされることでしょう。「十字架につけられ見捨てられたイエス」こそ、あらゆる不一致の原因をわからせ、再び一致をもたらすための「鍵」だからです。一致のあるところに実りがもたらされます。「二人三人が私の名によって集うところそこに私は居る」(マタイ 18:20)とイエスが言われたように、共同体の中にイエスの存在がもたらされるからです。

カトリックと福音派教会の信徒が互いに愛し合い、聖公会と東方教会、アルメニア教会と改革派教会の信徒が相互に愛し合うなら、どれほど大きな光がエキュメニズムの歩みにもたらされることでしょうか！」²

レティツィア・マグリ

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先：フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com

ホームページ：<https://www.focolare.org/japan/>

¹ 創世記 4. 8-16 参照

² キアラ・ルービック、「待降節のエキュメニカルな祈り」アウスブルグ（ドイツ）1998年11月29日

本を読むことはもの心つくかつかないかの幼い頃からの習慣なのですが、こうして生涯ずっと絶えることなく続いていると、もしこれがなかったとしたら、私の生きる世界はずいぶんと空しく、味気ない寂しいものであったらと思うのです。勉強とか教養とか向上とかでは一切なく、悦楽に浸る以外のなものでもないのですが、また大変幼稚で拙い読み手であることは自分で知っているのですが、それでも確かに読書は私の生きる糧であり、差し出されるもうひとつの生きる世界といえるでしょう。そして、読むことに加えてぞっこん惚れぬく作家との出会いは、影響を受ける感化されるというだけでなく、心の、魂の何物にも代えがたい深い悦びとなるのです。

松家仁之にはまっています。

デビュー作の「火山のふもとで」にあまりにも魅了され、出版される作品を読み継いでいます。作品はどれもしんと静かです。ざわざわとした動きが少しもなく、音も色彩もすべてが透明な窓ガラス越しに見る心象風景のような静寂に置かれ、心を揺さぶる昂ぶりも情動の激しさもありません。にもかかわらず心に落ちてくるものは呼吸、感情を共にして親しく鮮やかです。それから実は私は祈りを共にしていると感じるのです。

四作目の「光の犬」は格別でした。

聖書か或いはドカ弁かと言いたくなるほど厚みがある長篇です。

四世代にもわたる一族面々と飼い犬北海道犬の日常生活、人生が、長い年月を行きつ戻りつしながら静かに懇ろに語られますが、息をするのがはばかれるような深い静けさが覆う筆致に魅了されます。

誕生、病、老い、死、人間のことが深く現れます。

作者松家仁之がキリスト教とどのような関りを持つのかを私は知らないのですが、実はどの作品もキリスト教は無縁ではないように思われるのです。直接の主題ではないながら、教会、日曜礼拝、牧師・・プロテスタントの背景は登場し、私はいつも何らかの意図を受け取りたくになります。

今回ここに取り上げたくなった「光の犬」には、私自身驚きに打ち震えるような出来事が書いてあり、読んだ私は未だに心が落ち着いていません。

深い感動をもって本書を手にした数多くの読者諸氏は、この箇所をいったい何を思って如何なる気持ちで読み進んだのでしょうか。少なくとも私たちキリスト者は平静に無言で頁を繰ることはできないでしょう。

ヒロインの愛する人は幼馴染の牧師の息子であり、紆余曲折を経て長じて彼も牧師となります。 聖書等も随所に登場しますが、例えば唐突に一つの章が「マルコ福音書」11章15－19、「ヨハネ福音書」2章13－25の文面を並べるだけの構成にはいささか呆気にとられます。それも田川建三訳です。

次の章に凄惨な暴力の出来事があり、暴力に対してのイエスの在り方が考察されていて少しだけ腑に落ちますが……。 しかしながら私が驚きに打ち震え、未だに心が落ち着かないというのは、このヒロインは30代の若さで癌で死んでゆくのですが、死に際してかつての恋人で今は別々の人生を歩むも、決して忘れることのないかの牧師の息子に自分の最期の望みを手紙で託すのですが、それが何ということカトリックの終油の秘跡を牧師であるあなたから受けたいというものでした。 牧師はカトリックの司祭を尋ねます。 司祭は終油の秘跡が今は病者の塗油であること等を丁寧に説き、道具の一式、自分の白い聖衣をも貸し与え、嗚呼 牧師に按手して祝福して送り出します。

秘跡の塗油の場面は、もうほんとうに言葉であって言葉ではないもので表されているというのか、たとえようもなく優しく清らかで厳粛で、ヒロインと一緒に私もほんとうに死んでゆくかの思いを覚えたのでした。 この時こみあげる私の涙は感情などではなく、何ものかに呼応して魂の底から昇ってくる柔らかな切切とした「ことば」なのだと思っています。

書き記されている香炉、乳香、没薬、聖油の何という美しさでしょうか。

小説が人間を描くものであり、そこには人間が深く現れることであるなら、そのもっとも深く深みには、出口というか入り口というかどこか明るみがあって、光と呼ぶものが必然的に在るのだとわかるのです。 人間のための、私のための光がきつといつも在るのです。 それは私が見知っている光とは限らず、極端には闇なのかも知れないのですが、小説を読むときその光を知る気がします。

お鍋の中にもキリストはおいでになると宣言した聖人がおられるのですから、小説の中にならば必ずキリストはおられるでしょう。

それにしても松家仁之とキリストは、この二人はいったいどんな関係を結んでいるのでしょうか。

「光の犬」とは、光とは何を表して題名とされているのでしょうか。

物語の中の光も犬もはかり知れず深遠です。

(上野毛教会信徒)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< **Communications** (時事通信) >>

2018年11月20日

カナダの跣足カルメル在世会の大会

2018年10月5日～7日

マルタ管区に属するカナダの跣足カルメル在世会は、第8回大会を開催し、西カナダの在世会からも何人かが出席しました。

大会開会ミサは、トロント大司教区のトーマス・コリンズ枢機卿と跣足カルメル修道会のマルタ管区長ホアン・デ・ボノ神父の司式で、大勢の司祭と助祭と共に捧げられました。

大会にはカナダ中・東部の英語圏にある22の共同体から、約200名の会員が参加し、兄弟姉妹として親密な交流の時を持ちました。その中にはポルトガル語を話す人が数人、中国語を話す人が一人いました。

大会では、“カルメルの霊性の中で今日の世界のために炎を燃え立たせる”というメインテーマについて思いめぐらしました。グラディ・マクマラン在世会管区顧問会会長、カルメル在世会担当総長代理アルシニール・デバスティアーニー神父、マルタ管区長ホアン・デ・ボノ神父、在世会担当管区長代理ドミニク・ボルグ神父らが講演しました。



大会閉会ミサでは、8名の会員が終世約束を宣立し、8名がそれぞれの共同体への入会を認められ、1名が有期誓願を立てました。大会がよく準備されたお陰で、各セッションにおいて、大きな一致と積極的参加が体験されました。大会はまた、カルメルの召命を互いに分かち合い、堅固にするためにも重要な機会となりました。それに加え、大会の中では、修道生活の召命への関心が、良き牧者に献げられた祈りの中に、とてもよく現われていました。

カナダのこの地区に、女子カルメル会の修道院が二つ、ゼファーとセント・アガタにあること、またスカボロに男子カルメル会の共同体があることを思い起すことは、よいことでしょう。私たちは、共に過ごすことのできたこの数日間を神に感謝するとともに、カナダに現存するカルメル会のために神に祈りました。

アルシニール・デバステアニー神父, OCD
カルメル在世会担当・総長代理



糸巻き棒からペンへ(38)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

テレジアは、著作の中で、順調に結婚した女性の義務について熟考しています。彼女はすべてのことで夫に従わねばなりません。嫉妬深い夫を持った女性の苦しみを、キリストの花嫁の自由と比較しています(CE38.1)。聖女自身も、第二の選択(訳注:修道召命)を決意したとき、まったくはっきりとした超自然的な動機でそうしなかったことを認めています。「愛よりも奴隷的恐れが私を突き動かしていたように思われます」(『自叙伝』3,6)。さらにカルメル会に入る決心でさえ、そこには彼女の夫の仲良しであるホアナ・ホアレスがいたからでした。「私は、靈魂にとってより良いものより、私の好みや虚栄を考慮していました」。しかし神は、曲がった定規でまっすぐな線を引くことができなくなります。

エンカルナシオン(修道院)での生活

テレジアがカルメル会修道女となった時、エンカルナシオン修道院の建物は、まだ工事が終了していなかったのですが、新しいものでした。1478年の最初のベアテリオ(訳注:他の場所ではベギンと呼ばれている敬虔な婦人たちの共同体)は、1500年頃に正式に(カルメル会の)修道院に変わりました。それ以来、1515年4月4日(この日に聖女は洗礼の秘跡を受けました。訳注:誕生は3月28日)、現在の場所で最初のミサが行われるまで、いろいろな場所に移動しました。最初の修道女のグループは14人でしたが、1540年には120人、1545年には165人、それからほんの数年後には200人と、増え続けました。新しい修室や面会室の建設のために引き起こされた費用は、教会の決着を先延ばしにし、またたく間に共同体を借金だらけにしました。

この修道院やその時代の他のどの修道院の構成も、同時代の社会の反映でした。それは、今日、修道者の共同体に見出される構成とは大きく異なっていました。共同体は、主への奉仕に完全に自らを献げたいと、真摯に呼ばれた少数派の修道女たちによって作られていました。彼女たちの中には、何人かの模範的な修道女が、さらには聖女たちもいました。

同時に、女性が独身のままでいることは認められず、大多数の若い男性は軍隊に入るかアメリカに行ってしまったので、修道院は良家の娘たちの住まいとなってしまったのです。(続く)

カルメル誌 新刊案内



2018年 冬号 No.371

《霊的生活への招き》

秘跡に養われるキリスト教生活(2)―洗礼の秘跡

今泉 健

信仰生活(再)入門 テレーズと共に歩む 幼子の道(4)

―小鳥の祈り(2)信仰のまなざし 片山はるひ

カルメル会の会則に見る

アシェンシスと修道生活(4) 九里 彰

現代に響くルルドの霊性(Ⅲ)

―マッサビエルの洞窟での観想と聖母出現

須沢かおり

祈りを育てるために

森 一弘

風に吹かれて(18) カラスの贈り物―与え与えられる

原 造

キリストに伴われて季節を巡る(4) 伊従信子

祈りを教えてください(4) ヨハネ福音書

―栄光と愛に包まれた祈り 田畑邦治

ともに暮らす家への気配り ポーリン・フェルナンデス

霊性研究会議義録(3)―クリスマスに際して

奥村一朗



2018年 特集号

「ともに暮らす家を大切に」

―『ラウダート・シ』を生きる―

「エコロジカルな回心」と「総合的なエコロジー」

吉川まみ

長く見落とされてきた

「身近で些細な存在をいとおしむ」スポット・ライト

大瀬高司

人知れず紡がれていく世界の中で

―『ラウダート・シ』の霊性

中川博道

諸宗教対話の立場からひと言

フランコ・ソットコルノ

自然とカルメルの霊性

―十字架の聖ヨハネを中心にして

九里 彰

ご案内

1冊 520円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会
信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円(+送料180円)】程度の献金を下記
へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬
+特集号 計 3,500円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356



2019年のご案内

年間テーマ かかわりを広げる

特別企画

リレー対談 私と、家族と、社会とのかかわり
 晴佐久昌英（東京教区司祭）× 香山リカ（精神科医）
 関根英雄（東京教区司祭）× 宮台真司（社会学者）

以降継続

神から受けて、自分、隣人、家族へ、そして教会だけでなく、社会へと広がっていくべき「かかわり」。その愛のかかわりをそれぞれの場で今一度見つめ直し、深めるために数組の識者が対談します。

新連載

●カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎 大瀬高司（カルメル修道会司祭）

海軍軍人、また昭和天皇の側近として活躍し、日本とパチカンの外交関係樹立に貢献した山本信次郎の足跡を史料を基にたどります。



大瀬高司 師

- 詩編の中の「わたしと神」／青木孝子（聖書学者）
- 典礼と信仰教育——オリエンス典礼セミナーⅢ（4月より）
- 「先生、あの偉そうな赤ちゃん誰？」——神様をめぐる対話
 小林由加（カトリック学校教員）
- 典礼暦とともに、季節の味わい／柳谷晃子（台所料理人）

月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンス宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンス宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp>



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

修道院の風

宇治カルメル会 修士 原 造・著

競争社会の真ただ中、ある夜、闇の中に流れ来るふしぎな調べに足を止めた。それは、初めて耳にした、心に沁みる祈りの声――。

この世に、しかも身近に、自分のためではなく、神と人びとのために隠れて生きる人びとがいることも知った。そしてそこから、自分の人生設計にはななかった、洗礼、修道生活という新たな世界へと導かれてきた。

これは、修道士となり、人生も黄昏のときを迎えた祈りの日々、折りにふれて綴った随想の風。

著者★原 造（はら つくる）

1946年 群馬県桐生市生まれ。

1991年 男子靴足カルメル修道会入会。

1997年 荘厳誓願宣立。

現在に至る。

女子パウロ会
新刊案内

5月10日発行



B6判・128頁・定価 本体1,100円＋税
ISBN978-4-7896-0794-0 C0016 NDC194

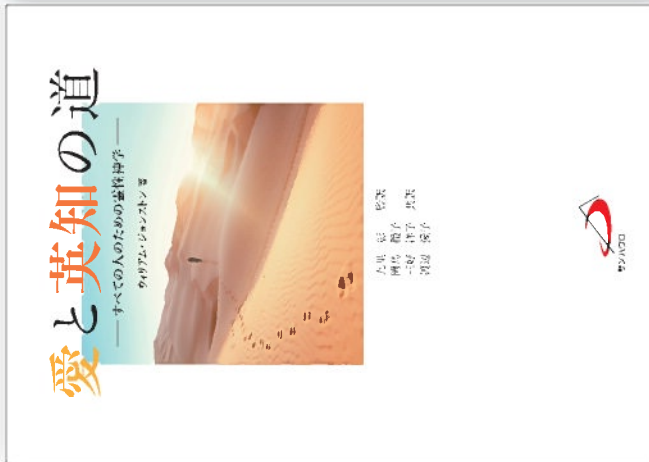
愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳

岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**

**第2版
好評発売中!**



マリー=ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール/J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



上野毛 霊性センター(東京) (2019年～2020年3月)

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院(黙想)**

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【聖週間】 4月18日(木)夕食～21日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 12月24日(火)～25日(水)朝食《講話なし、夕食なし》

聖書深読黙想会 (土曜日18時～日曜日16時) 大瀬高司 神父

5月11日(土)～12日(日)

7月20日(土)～21日(日)

11月30日(土)～12月1日(日)

一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時) 志村武神父

5月25日～26日 2020年

7月6日～7日 1月18日～19日

11月9日～10日 3月14日～15日

日帰り黙想会 (13時30分～16時) 福田正範 神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように……。

1月11日(金) 1月25日(金) 2月 7日(木) 2月22日(金) 3月 7日(木)

3月22日(金) 4月11日(木) 4月26日(金) 5月 9日(木) 5月31日(金)

6月13日(木) 6月28日(金) 7月11日(木) 7月26日(金) 9月12日(金)

10月31日(木) 11月14日(木) 11月29日(金) 12月13日(金)

2020年

1月 9日(木) 1月31日(金) 2月27日(木) 3月12日(木) 3月27日(金)

*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

奉献生活者のための黙想会 (初日17時～最終日朝食) 福田正範 神父

8月1日(木)～10日(土) 10月10日(木)～19日(土)

8月16日(金)～25日(日) 12月27日(金)～1月5日(日)

青年黙想会(男女) 35歳位まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士
2月16日(土)～17日(日)
4月27日(土)～29日(月)

2020年

2月15日(土)～16日(日)

召命黙想会(男女) 40歳まで(初日16時～最終日16時) カルメル会士
11月22日(金)～11月24日(日)

特別黙想会(初日20時～翌日16時) Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
11月15日(金)～11月17日(日)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

***** 日帰り黙想会 *****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ” とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように……。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父



*午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加……¥2000、午前からのご参加……¥3500

日時：2018年	11月 8日 (木)	午後1時30分～4時
	11月30日 (金)	〃
	12月13日 (木)	〃
2019年	1月11日 (金)	〃
	1月25日 (金)	〃 *変更
	2月 7日 (木)	〃
	2月22日 (金)	〃
	3月 7日 (木)	〃
	3月22日 (金)	〃

*お問合せ・お申込み：

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル修道会 土曜静修 in 名古屋

—カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日—

日 時 : 2019年 1月5日 (土) 13時から 17時

テ ー マ : — 未定 — <決まりましたらホームページにてご案内します>

場 所 : カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (カトリック日比野教会)

プログラム : 13時 ~ 講話・黙想など
16時 ~ ミサ (ミサ中に教会の祈り)、サルヴェ・レジナ (ミサ後)
17時 解散

- ・受付開始は12時半の予定です。(聖堂には12時からお入りいただけます。)
- ・途中、ゆるしの秘跡の時間を設ける予定です。
- ・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

そ の 他 : 参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。
(尚、当日は、1,000円程度のご寄付を宜しくお願いいたします。)

問い合わせ : 郵便、FAX、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便 456-0062 名古屋市 熱田区 大宝 4-5-17
FAX 052-681-6445
E-mail hibino@carmel.or.jp

今後のスケジュール

2月2日(土)、3月2日(土)、4月6日(土)、5月4日(土)、6月1日(土)、7月6日(土)、
<8月はお休みです>、9月7日(土)、10月5日(土)、11月2日(土)、12月7日(土)。

何れも原則13時から17時まで。ホームページでもご案内しています。

<http://www.carmel-monastery.jp>

<主催> 男子跣足カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (大瀬神父・ウイラー神父・古川神父)



宇治カルメル会 黙想会案内 (2019 年度)



【一般のための黙想】・1泊2日 (午後5時～午後4時)

- 1月19日(土)～20日(日) 「何を求めているのか」 九里彰神父
 6月1日(土)～2日(日) イエスと出会い直す 中川博道神父
 7月13日(土)～14日(日) 「私の隣人とはだれですか？」 九里彰神父
 11月23日(土)～24日(日) 現代を生きるイエスのしるし 中川博道神父

【聖書深読黙想会】(午前10時～午後4時)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1月26日(土) 中川博道神父 | 6月8日(土) 中川博道神父 |
| 3月9日(土) 九里彰神父 | 9月7日(土) 九里彰神父 |
| 4月20日(土) 中川博道神父 | 11月16日(土) 九里彰神父 |

【水曜の黙想】(午前10時～午後4時)

- 1月23日(水) イエスとともに歩む新しい年 中川博道神父
 2月13日(水) 「キリストの平和」 九里彰神父
 3月20日(水) イエスとともに過越しを祝う Sr.ロサ
 4月17日(水) 復活のイエスをさがして 中川博道神父
 5月15日(水) 「だれが一番偉いか？」 九里彰神父
 10月30日(水) かそけきもの Br.原造
 11月27日(水) あなたは世の塩である Sr.ロサ
 12月18日(水) 主が生まれる私たちのうちに 中川博道神父

【土曜の黙想】(午後1時～午後6時)

- 5月18日(土) ”我”に立ち返る時 中川博道神父
 6月29日(土) ゴールは近い Br.原造
 7月27日(土) 「私は復活であり、命である」 九里彰神父
 9月21日(土) み国が来ますように Sr.ロサ
 10月26日(土) 「思い悩むな」 九里彰神父

【生活の中での霊的同伴】(金曜午後8時<夕食なし>～土曜午後4時)

- 1月11日(金)～12日(土) 九里彰神父
 3月15日(金)～16日(土) 九里彰神父

【一般のためのカルメル霊性】(午後5時～午後4時)

- 9月28日(土)～29日(日) 聖テレーズの黙想会 中川博道神父
 10月12日(土)～13日(日) イエスの聖テレジア 九里彰神父
 12月14日(土)～15日(日) 十字架の聖ヨハネ 中川博道神父

【青年の集い（ネットで配信）】（午前10時～午後4時）

2月23日（土） 中川博道神父

【ゴールデンウィーク黙想会】（午後5時～午前9時）

4月28日（日）～5月5日（日） **イエスとともに生きる基盤を探す** 中川博道神父

【四旬節の黙想】（午後5時～午後4時）

3月9日（土）～10日（日） **新しい創造の時** 中川博道神父

【待降節の黙想】（午後5時～午後4時）

12月7日（土）～8日（日） **「メシアのしるし」** 九里彰神父

【奉献生活者の黙想】（午後5時～午前9時）

5月23日（木）～6月1日（土） 九里彰神父

8月5日（月）～14日（水） 中川博道神父

8月19日（月）～28日（水） 九里彰神父

11月6日（水）～1月15日（金） 中川博道神父

12月27日（金）～1月5日（日） 中川博道神父

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後4時以降可 チェックアウト午前11:30 {講話なし 各食事つき}

【聖週間を祈る】

4月18日（木）～21日（日）

聖木曜日から復活祭まで またどの曜日からでも参加可能です

【クリスマス】

12月24日（火）～12月25日（水）

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに56年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしくお願いたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：7205805
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：56845391
名義：男子跣足カルメル修道会



男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel：052-671-1558 Fax：052-681-6445

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のもものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
慈しみ深き会
詩編の会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



カルメル霊性センターニュース

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

2019年以降の予定

今後の内観は、希望者の日程や会場・修道院の都合を調整して行います。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターにお問い合わせください。

電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

(新住所)

◎〒662-0003 兵庫県西宮市鷺林寺町3-46 シトー会

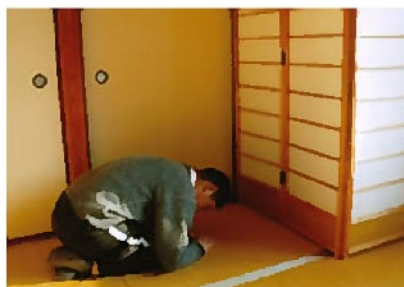
西宮の聖母修道院 司祭館

「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父

FAX 0798-71-5234 Eメール fujinao1944@nifty.com

<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。



「祈り」：神秘体験
キリストによって神との出会い

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

2月14日：コデノッティ・クラウディオ神父(ザベリオ会管区長)
個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

- 1月10日 「わたしはある」（ヨハネ8:24.28）
2月14日 「わたしはこの世の光である」（ヨハネ8:12.12:46）
3月14日 「わたしは門である」（ヨハネ10:7-9）
4月11日 「わたしは良い羊飼いです」（ヨハネ10:14）
5月 9日 「わたしは復活であり、命である」（ヨハネ11:25）
6月13日 「わたしが命のパンである」（ヨハネ6:35.51）
7月11日 「わたしは道であり、真理であり、命である」（ヨハネ14:6）
8月 休み
9月12日 「わたしはまことのぶどうの木」である。（ヨハネ15:1-12）
10月10日 「わたしは…いつもあなたがたと共にいる」（マタイ28:20）
11月14日 「わたしはアルファであり、オメガである」（黙示録1:8）
12月12日 「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、
わたしもその中にいるのである」（マタイ18:20）



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

講話と祈りの集い

1月26日(土)

新しい年に

主は呼んでおられる



午後2時～午後5時30分

担当 伊従 信子 中山真里

講話・祈り・質問・分かち合い

場 所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）

参加費：200円



ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jesuits.or.jp/> ★申込み受付・・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
サダナ 新 I	1/20(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F (四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※ TEL 090-5325-2518 045-577-0740 sadhana12378@yahoo. co.jp ※
サダナ I	2/8(金)17:30- 11(月)16:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院 (小金井市)	同上
フォローア ップ	3/10(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F	同上
サダナ II	3/20(水)17:30- 24(日)16:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院	同上

※メールアドレスが変わりました。申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子
Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門 A.B.C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざします。

◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合されます。

◆フォローアップ・・・サダナ I を終えた方。

◆入門 C・・・入門 A または 入門 B を終えた方。

新しいコース

◆サダナ新 I

入門 A.B.C (サダナ I) に参加された方の引き続きの前進のために、その良さを噛みしめながら進みます。以前体験したことを復習しながらの歩み出しです。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院 (2019年)

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2018年12月27日(木)～2019年1月4日(金)
- ② 2019年5月5日(日)～5月13日(月)
- ③ 8月14日(水)～8月22日(木)
- ④ 10月6日(日)～10月14日(月)
- ⑤ 12月27日(金)～2020年1月4日(土)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2月1日(金)～2月3日(日)
- ② 2月22日(金)～2月24日(日)
- ③ 3月15日(金)～3月17日(日)
- ④ 6月21日(金)～6月23日(日)
- ⑤ 7月12日(金)～7月14日(日)
- ⑥ 9月20日(金)～9月22日(日)
- ⑦ 11月15日(金)～11月17日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2019年5月30日(木) 夕食～6月7日(金) 昼食 小暮 康久 師 (SJ)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フガナ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。)

2018年・2019度 女子青年黙

	日時	テーマ	講師
1	5月26日(土)～27日(日)	マルコによる受難	山内十束師(ご受難会)
2	7月7日(土)～8日(日)	マタイによる受難	山内十束師(ご受難会)
3	2019年 2月16日(土)～17日(日)	ルカによる受難	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

ルカによる受難

2019年度 第3回 女子青年黙想会

日時： 2月16日(土) 15:00～

17日(日) 15:30まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

【入門講座】

毎週金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本
テーマを取り扱います。無料

- 1/11 隣人愛－他人のうちにイエスに出会う
- 1/18 希望を持つ勇氣－未来に向かって歩む
- 1/25 霊の動き－福音による生き方
- 2/1 聖書と教会－信仰の基盤になる言葉
- 2/8 秘跡と教会生活－毎日を養う信仰
- 2/15 神の言葉
－神との日常的な対話と黙想の仕方
- 2/22 信徒・司祭・修道者
－誰もが召されている

【理解講座】

第1・3火曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、
キリスト教の中心的テーマを探求します。無料
2年間のコース。途中参加・部分参加も可

【聖霊】

- 1/15 三位一体の神
－救いの構造から神内の存在へ

【教会】

- 2/5 信仰者の共同体－教会の本質
- 2/19 救いのしるしと実現－秘跡の意味

【土曜アカデミー】

下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト
教哲学・神学の相互関係を考察します。無料
キリスト教思想史に関心を持っている方。
プログラムの詳細は、別途配布。

参考書:K.リーゼンフーバー著『西洋古代・中世
哲学史』『中世思想史』平凡社ライブラリー
近代と現代におけるキリスト教と理性

- 1/5 マルセル:対象認識と神秘(20世紀)
- 1/19 グアルディーニ:聖書のキリスト像(20世紀)
- 2/2 ヤスパース:実存と限界状況(20世紀)
- 2/16 ハイデガー:意識の構造と死への先駆性
(20世紀)
- 2/23 ガダマー:真理と方法(20世紀)
- 3/2 ラーナー:現代におけるキリスト者(20世紀)

【神学読書会】

第2・第4木曜日:18時～20時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と
神学に関する文章を読んで、話し合います。
テキスト:第Ⅲ巻「信仰と幸い－キリスト教の本質」
随時、どなたでもご自由にご参加ください。
※祝日、8月全体、12/27は休み。

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア中聖堂
信仰・宗派を問わず、どなたでも。
随時の参加・遅刻も可。お気軽に。無料
※祝日。8月全体は休み。

【祈りの集い】

下記の土曜日 13時30分～16時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室
講話、黙想、ミサがあります

- 1/12、2/9、3/16

【ロザリオの祈り】

上記同日のミサに続いて 16時10分～16時50分
クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂

【夕方のミサ】

下記の月曜日 18時～19時

上智大学内S.J.ハウス隣クルトゥルハイム1階右
テレジア小聖堂

1/28、2/25、3/25

【坐禅会】

第1、第3月曜日：18時～20時

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋
2回坐り、間に講話。遅刻・不定期の参加も可。

※祝日、8月全体は休み

【黙想会】

上石神井 1泊7000円

3/9(土)10時～3/10(日)14時

申込みの締切りは、初日の10日前

2018年

【クリスマスのミサ】

12/23(祝)14時～

上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂

【クリスマスの黙想】

12/25(火)18時50分～20時10分

聖イグナチオ教会マリア中聖堂

—上記の日程に変更がある場合は、
信徒会館1F掲示板でお知らせします。—



《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03-3263-4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

(上智大学名誉教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学S.J.ハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
—観想の祈りへの道—



場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

12月のみマリア聖堂（ミサあり）

14：00～16：00

くのり

指導：九里 彰神父（カルメル修道会）

【2019年予定】 聖書のみことばを通して、念禱してゆきましょう。

1月24日 まことの家族とは

「わたしの母、わたしの兄弟とは…」（ルカ8・21）

3月21日 祈りと祈りの場

「わたしの家は、祈りの家でなければならない。」（ルカ19・46）

5月16日 人間の傲慢

「だれが一番偉いかという議論が起きた。」（ルカ9・46）

7月25日 神の愛と隣人愛

「わたしの隣人とはだれですか。」（ルカ10・29）

9月26日 信仰と救い

「あなたの信仰があなたを救った。」

（ルカ7・50；8・48；18・42）

11月28日 神の愛と回心

「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

（ルカ19・10）

12月19日 謙遜と従順（講話の後、ミサ）


「お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカ1・38）

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



午後の静修<講話・念祷・ミサ>へのおさそい

《あなたを探しつづける神》

— 心奥深くに隠れ住むお方 —

日 時：2019年2月2日(土)
12時～16時(受付11時)

指 導：中川博道神父 (カルメル修道会)

対 象：どなたでもご参加ください。

※実費費用の為に献金をお願いします。

要申込：住所・氏名・電話番号・所属教会

をご記入の上、

FAX 又はメールにて (返信します)

定員になり次第×切

FAX:045-402-5131

e-mail: shihennokai@gmail.com

場 所：聖パウロ修道会 若葉修道院

東京都新宿区若葉1-5

JR 中央線/営団地下鉄 丸ノ内線・南北線 「四ツ谷」駅下車

サンパウロ→ドンボスコ→ファミリーマートを左折

→甘栗太郎を右折→道なりに右折→90m直進

四ツ谷小学校の正面

主催：「詩編の会」

問合せ：TEL/FAX：045-402-5131 (藤井)

e-mail: shihennokai@gmail.com



『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座（新設）
へお振り込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
《変わりました》 reisei@carmel-monastery.jp

「靈性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「靈性センターニュース」は、7月より、宇治靈性センター事務局で編集、
印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担し
ております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

2019年が始まった。今上天皇の退位後、現皇太子が天皇に即位され、平成は終わり、新しい年号が始まる。どのような時代になるのであろうか。

人類の歴史、各国の歴史、そして個人の歴史、それらはみな人間の手によって綴られている。どのような内容になるかは、ひとえに、私たちの考え方、生き方にかかっている。そこで重要となってくるのは、人間の「心」ではないだろうか。時代精神と言ってもいいが、それ以上に「心」と言いたい。

実際、私たちは何を信じ、何を大切にしているのか。それによって、その時代の社会、政治経済、文化の様相は規定されてくるだろう。キリスト教的に言えば、私たちが個人的にも共同体的にも、神のみ心、キリストの愛に、どれだけ心を開き、それを真摯に生きようとするかにかかってくるのではないだろうか。

どうか、御父が、その霊により、あなた方の内なる人を強めて、信仰によってあなた方の心の内にキリストを住まわせ、あなた方を愛に根ざし、愛にしっかり立つ者としてくださるように。またあなた方が、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人の知識をはるかに越えるこの愛を知るようになるように。(エフェ3・16~19)

(P. 九里)



(お詫び) 今回「みことばのひびき 主の公現・年間第2主日」分が担当者の都合により掲載できませんでしたことをお詫び申し上げます。

男子跣足カルメル修道会のホームページ

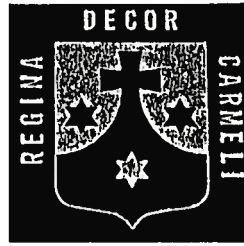
<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



『靈性センターニュース』お持ち帰りの方へ
一冊 100 円程度の献金をお願い致します



~~~~製本／発送のご協力お願い~~~~

「靈性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日 **1月25日(金) 午前10時頃から**

**宇治修道院信徒会館**

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

靈性センター事務局 ☎0774-32-7456